滿一年以上の赤ちやんはこの他に、車輪がついて曳いてまわることのできる動物や乘物の類を好みます。繪本、こわれない小さな湯呑みや鍋など皆よい玩具です。

滿二年には砂箱、人形、木製の汽車や自動車、トラツク、土を掘る道具を好みます。

滿三年になると三輪車に乘れる子供がたくさんあります。右の種類に加へて釘とハンマを使ふことを好みます。

滿四才以上になると子供は追々「大人のお仕事」に興味をもつて來て、箒やはたきを使ひたがつたり、お臺所に來て豆をむいたりします。洗濯をするのに小さな桶、盥などをよろこび、小さなお料理道具、小さな家具の色々に眼をつけます。大人の仕事もその一部を極く單純化して、短時間にできるやうなものを與へると子供は大いに元氣を得て仕事に興味をもつやうになります。時には大人に取つて邪魔なことがあつても、物心つく子供は大人らしい仕事、重要な仕事を自分がしてゐるといふことに滿足を得るのであります。

四才以上の子供にはなわとび、ローラスケート、マーブル、二輪車などが新らしい戸外運動の世界を展開します。

ガール・スカウトは六七才の子供を預つたなら、石や貝を集めたり、草花摘みや押花を教へたり切手の蒐集や、スクラツプ繪本に子供の知つてゐる動物の姿をあつめたりさせることができます。

おはなしと本

子供に聞かせるお話は材料を遠くに探し求める苦勞は要りません。お伽噺ばかりを聞きたがる子供もあり、機關車や船艦の話に無中になる子供もありますが、どの子供にも、大人にとつては何の興味もない日常茶飯の事件が大きな興味と冒險の事蹟のやうに思はれるのであります。例へば汽車に乘つた話などをくりかへしくりかへし云ひきかせても飽きません。「動物園のライオンが哮えた話」又は「お母さんがお汁を引くりかへした話」「姉さんが池にはまつた話」などはどれも子供におもしろく、且つ日常生活上の經驗と注意を與へます。

どんな本がこの子供に向くかといふことを發見するには、色々な種類の物を貸りて來て見せてみるのが最もよい方法であります。そして子供が一番好む本を買つて與へませう。小さな子供でも本は大切に扱ふべきことを教へませう。又子供は必ず自分の持物として本を與へられて、それらの本と共に生長してゆくやうにしませう。年齢に應じて、又個々の子供の傾向に應じて正しい藏書を與へるには、書店、圖書館等でその方面のものを廣くみて比較研究するか、又は子供の讀物についての專門家の研究を參照してみるのも結構であります。

お友達

子供は競爭心が強く、遊びの種類によつてはちよいちよいずるいことをするものです。例へば目かくしをしてゐる時、布の端から覗いてみたり、走り競爭で近道をしたり、勝ちたい一心で、惡いことをするものであります。あまり幼ない兒にはかうした競爭心を起させる遊び方はやめませう。これらの遊びは公明正大に遊ぶべきことが理解できる年齡まで待ちませう。幼ないお友達を集めて幼ない子供の宴會をしてやるには、他に貴女のお手傳をする少女を賴んだ方がよろしい。先づ始にみかんとビスケットのやうなもので會食をさせ、次に戸外で遊ばせるやうに、できれば砂箱、ブランコなどをととのへておきませう。屋內で遊ばせる時ならば、前以て主人側になる子供に、これこれの玩具はお友達に貸したり一緒に使つたりしませうといふことを納得させておくことが大切であります。若し子供にとつて大切なものがあつたらそれは出さないで藏まつておかせませう。自分よりも小さな子が壞すかもしれないことを知らせ、あつまりを終りまで樂しいものにさせるやうに、泣いたりおこつたりさせる原因をできるだけ取のけておきませう。樂しむ爲の宴會が泪になつては何にもなりません。幼ない子供のゲームは誰もが一度は順番がまわるやうなものを選びませう。氣の弱い子供が取殘されたり恥かしい氣持をさせられたりせぬやうに考へませう。何か賞品を與へるやうな種類のものならば、吃度誰も皆何かがあたるやうにしませう。大勢集つて遊ぶことは子供にとつてはかなり神經を緊張させるものですから度々してはなりません。

お遊びのあとの食物は輕いものに、なるべく夕食又は晝食にすれば親達のお手傳にもなり、子供も喜んで戴きます。食事がすんだら歸らせませう。トースト、野菜サンドイツチ、ココア、無害の色をつけたスポンヂケーキ位で結構です。

第十四章　ガール・スカウトのゲームと唱歌

紐結びゲーム

1　リング

○場　所　戸外又は室内
○準　備　各自ロープをもつ
○並び方　各パトロールが圓陣をつくる
○シグナルと共にロープの兩端を隣のスカウトのロープと丸結びにする、出來上つた輪を下におきその中に這入る、第一に這入つたパトロールが勝ち。

2　リレー

（次には丸結びの代りにはた結び等を用ひる）

○場　所　戸外又は體操場
○準　備　ロープ
○各パトロールが縦に並び、一列に並んだ肋木等に向つて、シグナルによつて走つてゆき、一定の結び方をしてかへる。正しい結び方で早いパトロールの勝ち。

救急法ゲーム

1　繃帶

○場　所　戸外又は體操場
○準　備　各自三角巾と五列卷繃帶（長さが同じであること）
○並び方　三ケのパトロールを負傷者と救護者にわけて並び、三十米程間をおいて並ぶ。シグナルで一人づつ走つて一人づつ繃帶をして自分の場所迄つれてかへる、と同時に次のスカウトが出て次の負傷者に繃帶をしてつれてくる。

觀察力のゲーム

1　數字ゲーム（又はキャンプ攻撃）

○場　所　戸　外

○準　備　各自三ケタの數字を一定の大きさにカードに書いて頭につける（敵にみられぬやうに）

○一ケのパトロールはキャンプの中に居てキャンプを守つてゐる、他の者は散らばつてかくれる、警笛のシグナルによつて外にかくれてゐた者はキャンプの中に這入るが、その時頭の數字を見られぬやうにする、キャンプを守るパトロール員は誰でもその數字をみつけたら大聲で數字をよみ、よまれた番號の人は死ぬ。多くキャンプに這入つたパトロールが勝ち。

2　旗　攻　撃

○場　所　六〇米位の廣さ

○準　備　各チーム（源平）ベースライン、旗を各チーム一本づつ

○遊び方　第一のシグナルで攻撃を初める、旗から八米以内で防禦してはならぬ。

頭の番號を呼んで敵を殺す、旗を取つて來れば二〇點、敵を一人殺す毎に五點。

右は旗の代りに數個の寶物を各陣屋内にかくして、さがし出させる方法もある。木の影等にボールやハンカチをかくす。

3　コムパス・ウイブリレー

○場　所　大きな室又は戸外

○準　備　床又は地面にチョークでコンパスの十六點を記す、之を各パトロールで爲す。

○並び方　各パトロールが圓陣をつくり、コンパスの十六點に一人づつ立つ。

○リーダーが「北東」と呼べば各パトロール北東點に立つスカウトが左まわりで、並んでゐるスカウトを縫うて圓をまわり、元の位置に移る。

第一に元の位置に歸つたパトロールは一點とる、次にリーダーは他の方向を云ひ同様にする。

4　トラツキング（一パトロールのみの遊び）

○場　所　戸　外

○準　備　次の○各點から一定の路程を通れば同じ距離になるやうに□をとり、□に至る迄の迷路を種々につくつて各岐路に石、枝、草の道しるべを立てておく。

○遊び方　○より一人づつ同時に進み、早く□點についてその點にみえぬやうに置いてあつたものをとつたのが勝。

傳言ゲーム

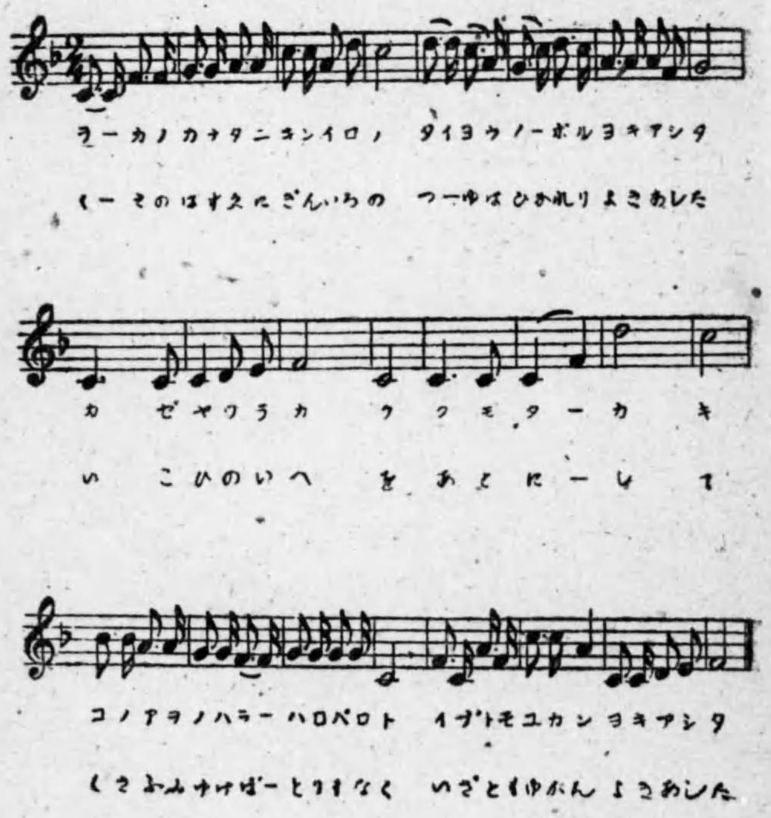
約二〇人一列をつくる。
數列が競爭する。
各列の先頭が同一の傳言を同時に次の人に耳うちする。
次々と耳うちして最後の人が大聲で云ふ、最も早く正しく云つた列が勝。

記憶と觀察のゲーム（室内）

テーブルの上にピン、時計、切手、ハンドバッグ、ハンカチ、其他何でも數種をおき、布又は新聞紙で、かくしておく。
まわりに並んでから合圖で覆ひをとり、一分間だつたら又おほふ。
その間にみたものの名をかく、最も多く書けた人が勝。

ハイキングのうた

林 博子詩
山本燿代曲



附

録

附錄

私の手帖

姓名

住所

トループ

入會　年　月　日

第二級ニ進級　年　月　日

第一級ニ進級　年　月　日

特技章種類

パトロールリーダー　自　年　月　日　至　年　月　日

トループ書記　自　年　月　日　至　年　月　日

私のパトロール

リーダー

パトロール會合日　毎週曜一

パトロール章

（參考）

私の初等級記錄

住所

姓名

トループ名

パトロール名

初等級修了　年　月　日

1 誓約、規則、擧手の禮
2 四種の道しるべの作り方
3 動物の作文
4 結索法四種
5 國旗に就て

右五條のテスト合格
指導者の認印

私の第二級記錄

トループ名

姓名

第二級修了　年　月　日

1 方向測定
2 觀察によるスケッチ地圖
3 火のたき方
4 結索復習
5 信號
6 自然界の研究
7 健康經典五條
8 救急法
9 食卓の準備
10 料理
11 寢臺の造り方

私の第一級記録

トルリプ名

姓名

第一級修了　年　月　日

1 初等級生の訓練
2 よき市民としての奉仕
3 地圖の製作
4 高さ距離重量の目測
5 テントを張ること（又は道路をつくること）
6 一泊キャンピング又は日がへりハイキング
7 シグナル
8 水泳
9 左の特技章を得ること
　a 自然研究　b 救急法　c 料理又は家事　d 家庭看護又は育兒法
10 節儉

ガール・スカウト保健表（一週間）

	日	月	火	水	木	金	土
1 體操をしました							
2 戸外で三十分以上（遊びました・働きました・歩きました）							
3 昨晩十時前に就寢、八時間以上眠りました							
4 窓を明けて寢ました 火氣、植物のない室で寢ました							
5 五杯水をのみました（朝食前1 晝までに2 夜までに2）							
6 食事の他に甘いもの（アイスクーリム、紅茶 抔を戴きませんでした）							
7 青い野菜、果物、牛乳をいただきました							
8 便通がありました							
9 食前、料理の前に手を洗ひました							
10 入浴しました							
11 朝夕齒をみがきました							
12 髪をブラシをかけました							
13 髪を洗ひました（四週に一回以上）							
14 肌着、ハンカチを洗ひました							
15 眼と足の衛生を守りました							

自　年　月　日　至　年　月　日

姓名　　指導者印

この書を
世界の少女と手をつなぎ
家と社會に奉仕しようとする
日本の少女達に捧げます。

昭和二十三年九月

著者

割當事務庁
譲渡図書

ガール・スカウト
ハンドブック

昭和二十三年九月十五日印刷
昭和二十三年九月二十五日發行
定價 百三十圓

著者 尾本和榮
發行者 河北喜四良
印刷者 中野勝秀
製本者 利倉駒太郎
發行所 京都市中京區二條通堺町東入 河北印刷出版部
電話上(二七六五番 四六四三番 五一五五番)
配給元 日本出版配給株式會社

(製本・印刷 河北印刷工業所)

終